

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091300030		
法人名	サンコーケアライフ株式会社		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	福岡市城南区樋井川1-7-38 (電話) 092-873-8354		
自己評価作成日	平成23年4月30日	評価結果確定日	平成23年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域との密着を大切にしている。日頃から近所の方との交流があり花見や祭りに呼ばれたり、当所の避難訓練や行事に多数参加されている。また、入居者は孤立することなく、明るい日常生活を過ごされている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年5月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

戸建住宅が建ち並ぶ住宅街の中にあり、同法人が運営する有料老人ホームと同敷地内に併設された鉄筋2階建ての2ユニットの事業所である。地域との関係づくりに努め、事業所の防災訓練に地域住民の協力が得られる等、良好な関係を構築している。また、運営推進会議では地域包括支援センター職員や医療職を講師として勉強会を行う等、事業所職員だけでなく、家族や地域住民に対し、認知症介護の理解を深めるための機会にもなっている。事業所理念の一つである「笑顔とやさしさ」が職員に浸透しており、日頃から利用者一人ひとりへの個別対応を大切にされたケアサービスが提供されている。また、少人数定員を活かし重介護者への対応も行っている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングのいつも見えるところにかかげ、忘れることなく理念を共有し、実践に心がけている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を独自につくり上げ、月に1度のミーティングの際に、理念を共有し、実践できるように話し合っている。また、理念は各ユニットの目立つ所に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいサロンやその他の行事に参加している。ご近所の方とも気軽に声かけて、地域の一員として暮らしている。	事業所は町内会に加入しており、近隣の住民宅に花見に行く等近隣住民との日常的な交流を心がけている。また、清掃活動や地域の祭りに参加したり、事業所主催の行事に地域住民を招いたりしている。地域の保育園の慰問や中学校の体験学習、民謡ボランティア受け入れなど、積極的に地域との交流を図るよう努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	可能な限り地域の行事には参加し、職員がどの様に入居者と関わっているかを実際に見てもらっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や地域包括支援センター、市役所の職員に参加してもらい、入居者の生活状況、勉強会やスタッフ会議の状況などを報告して意見を聞き、サービス向上に繋げている。	運営推進会議を2か月に1度開催し、サービス利用状況や活動報告等を行っている。また、地域包括支援センター職員から「虐待について」、医療職の委員からは「ノロウイルスについて」など、会議の中でテーマを設け、勉強会を行うことによりサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	家族からの問い合わせや質問・疑問点は、すぐに市町村の担当者に尋ね、問題解決に向けて努力している。	日頃から行政へ事業所の空き状況を伝えたり、地域包括支援センターと連携しながら入居受け入れを行うなど協力関係を築いている。行政に気軽に相談できる関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足させ、身体拘束ゼロを目指して取り組んでいる。	日中は玄関や居室を施錠せず、職員が利用者の外出傾向等を把握し、付き添いや見守りを行っている。事業所内に「身体拘束廃止委員会」を設置し、身体拘束に関するマニュアルを全職員に配布、個別事例を通して対策を考えるなど勉強会を行っている。また、一部職員が身体拘束に関する外部研修を受講、全職員は内部研修にて学ぶ機会が設けられている。テキストや報告書等を保管している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、一番身近な「言葉使い」についてしっかり話し合い、職員同士で注意し合うようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して、利用者や家族へ情報提供を行い、いつでも家族からの質問に答えられるようにしている。パンフレットの準備もしている	偏った職員が受講することがないように外部研修受講を輪番制にし、制度に関する研修を受講している。また、受講できなかった他の職員へ伝達研修を行っている。テキストや研修記録等がある。利用者・家族等へは、利用開始時に説明し、状況に応じて、地域包括支援センターと連携を図り、制度を活用できるように支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず入居時に契約書に記載されている事を全て読み上げ、質問に答えて、納得してもらった後に捺印してもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は、何でも話し易い雰囲気作りで心がけている。御意見箱を玄関に設置している。意見、要望はすぐに話し合い、支援に反映させるようにしている。	日頃より利用者及び家族等から個別に意見や要望等を聴くよう声かけに努めている。意思表示が困難な利用者に関しては、家族からの情報や本人の表情等より、本人が望まれることを推し測りながら運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務連絡会や全体ミーティングを定期的に行い、いつでもフロア長やホーム長、職員の意見、提案を話せる職場環境になっている。	自己評価作成については、全職員が記入して管理者が集約し、作り上げている。前回評価の改善計画及び自己評価票については、月1回の職員会議の際に、全職員で話し合っている。管理者は、職員の自主性を導き出すために、各種委員会を設けて、役割と責任を持たせている。また、管理者は、職員との個別面談を行い、人間関係や通勤に関する問題等の悩みや問題を聴き取り、働き易いよう配慮している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員への登用も可能になり、日々の努力がボーナスに反映されている。その他、研修費、勉強会にも積極的に参加するように勧めており、費用は会社が全て負担している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等のみの理由で採用の決定はしていない。希望休日の配慮や資格獲得を勧め、働きやすい職場を目指している。	採用選考では、対人援助職としての適正を重視し、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、資格取得の推奨、職員が希望する研修の費用負担を行う等職員育成に力を入れている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修への参加、勉強会実施で全員が入居者の人権を尊重する様にしている。	一部の職員が定期的に地域の住民や学校職員が参加している人権に関する勉強会に参加している。 人権に関する研修についてのテキスト・パンフレット・研修記録等はない。	研修に関する資料や報告書等を残し、外部研修を受講した際には、全職員へ伝達研修を行う等、職員への周知・啓発を行うようお願いしたい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修が受けられるように促し、情報提供をしている。勉強会も各自でテーマを考えてもらい、今必要な課題を選んで介護に役立ててもらう様にしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2件のグループホームと1名ずつ職員の交換をし、1日研修交流を兼ねて、サービスの質の向上を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問・見学してもらい、内容を理解できる様にわかりやすく説明している。入院中の方は必ず病院にて本人に会い、直接話しを聴くようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が事業所に相談に見える際は、気軽に話せる雰囲気作りをし、真剣な態度で話を聞く様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族より生活状況を詳しく聞いて把握し、どの様な支援が適切か確認している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする時どんなに認知症が進んでいても気づかされる事や教えられる事が沢山あるので、本人の立場になって考える様に努めている。出来る事、出来ない事を考えて役割りを持ってもらっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも話し合える様な信頼関係を築き、協力して支援が出来る様にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会が多いが、知人や友人の来訪が少ない様に思う。高齢者が多いので、知人や友人の数も減っている。	利用開始時に利用者の基本情報を聴取する際、本人及び家族等から馴染みの人や場所について聴取しており、電話を取り次いだり、レクリエーションの中で馴染みの人へのハガキを書くなど、これまでの関係が継続できるよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況を全職員が把握し、上手にコミュニケーションが取れる様に努めている。適切な声かけやふれあいを大切にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者や家族とは連絡を取り合い、状況を尋ねるようにしている。また、家族からの連絡も時々ある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自ら訴えることが出来ない方が多いので、日常生活の中で本人の言葉や行動、会話により把握するようにしている。	一人ひとりの思いや希望等を大切にし、把握に努めている。 意思表示が困難な利用者の場合は、家族からの情報や日常の様子を観察し、意向を推し測るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しいアセスメントを作成して、ある程度把握している。また、日常のかかわりを密にしてコミュニケーションにより把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、ミーティング、ケアカンファレンス、入居者とのかかわり等において全職員が入居者の現状を把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	このホームにて楽しく幸せに暮らしてもらい、また生き甲斐を見出してもらう為に、ケアカンファレンスや家族懇談を行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	ケア会議は月1回開催。担当者が利用者や家族の希望を聞いている。会議では、日頃の気づきや利用者や家族の意向等をケアマネジャーが集約し、現状に即した介護計画を策定している。介護計画は利用者や家族に説明し、署名・押印がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常の姿や職員のケアの実践がわかるような記録の仕方をしている。利用者の「なにげない一言」を記録し、介護計画に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、外食、買い物、花見、ドライブ、散歩、誕生会など利用者の体調に配慮しながら計画を立てている。その際は、家族にも参加を呼びかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会を開催する中で、地域とのネットワーク作りができ、協力をお願いしている。近くの交番にはホームの存在を報告している。消防指導を受け、利用者も地域の方たちと共に訓練に参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を選べるように説明している。以前からのかかりつけ医を希望される方は診療提出書をいただいて連絡をとり、可能な限り職員による通院の支援も行っている。	かかりつけ医の選定や通院方法については家族や利用者の希望に添っている。事業所の連携医への通院介助は職員が行い、受診結果等については、必要に応じて家族と連絡を取っている。連携医以外への受診は家族が同行し、受診内容はその都度家族から報告を受けている。緊急の場合に備えて医療機関持参ファイルを準備している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護において、バイタルチェックやかかりつけ医の中で気づいた情報をかかりつけ医の看護師や同敷地内ホームの看護師に相談し、支援を得ている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、面会の機会を利用して、家族や病院関係者と相談して早期退院を促している。リハビリの進み具合など情報を得ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての意向の確認を取り、同意書を得ている。かかりつけ医や家族と相談し、方針を決めている。「看取り」は行っていないが、かかりつけ医と相談しながら出来るだけホームで看るようにしている。	重度化や終末期のあり方については、事業所の方針があり、入居時や状態に応じて、利用者や家族と話し合い、方針を共有している。医療機関と連携し、利用者や家族の意向を踏まえて、ホームが看ることができるところまで支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同敷地内ホームの看護師指導による応急手当や初期対応の訓練を行っている。また、消防署による講習にも参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を実施し、全職員が安全に利用者を誘導できるよう訓練している。近隣の住民を始め、地域とも運動して協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施し、避難経路や消火器の使い方、救命救急等の訓練を行っている。また、夜間を想定した訓練も行っており、地域住民に呼びかけ、母体法人と合同で避難訓練を実施している。マニュアルを作成し、非常用飲料やリネン類等の準備もできている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に本人や家族の視点に立って、個人を尊重した適切な呼びかけや利用者を傷つけない介護を心がけている。個人情報には鍵をかけて保管している。	特に入浴やトイレ介助等の際には、態度や言葉遣い等でプライバシーを損ねないように、研修や日頃のミーティングで意識の共有を図っている。また、職員が地域との交流や他の家族に対して、利用者および家族のプライバシーに関する話をささないように徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を言葉だけでなく、日常生活の中の表情や行動、スキンシップ等で引き出す機会を作っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムに配慮しながら、起床や入浴時間、食事にかかる時間等、個々のペースに合わせて柔軟に対応している。また、レクリエーションや散歩など一人ひとりに声かけし、希望を尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容は定期的に家族や訪問散髪にお願いしている。毎日着る衣類、外出時や誕生日会等の行事の際は、おしゃれに気を使って選んで装っている。衣類のチェックを常に行い、家族とも相談しながら季節にあった身だしなみやおしゃれが出来るように気をつけている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も共に楽しく会話しながら食事をしている。職員の席は、介助の必要性を特に考えて座るようにしている。また、給食委員会にて、食事の内容や素材などの希望・意見を出して満足をして貰えるように対応している。	職員と利用者は、準備・食事・片付けまでを一緒に行っている。職員は、食べ残しの量や利用者からのメニューの希望等を栄養士に報告し、献立を工夫してもらっている。また、利用者の好みや能力を活かして職員と一緒に作ることができるおやつ作りが行われている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調に合わせて、食事量を調節し、キザミ食や軟飯にして食べやすくする等の工夫をしている。摂取量は記録している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、必ず毎食後誘導する様にしている。自分で出来る方は、見守りながら介助し、困難な方は職員と一緒にやっている。義歯のポリドント消毒も適時行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを記録によって把握している。さりげない声かけ誘導にて失禁を減らす様に支援している。失禁がある時は、清拭剤を使用して整容に努めている。	排泄チェック表を活用して、排泄の時間帯を把握し、利用者のサインを見逃さないようにトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄支援に力を入れ、排泄の失敗やおむつの使用を減らせるよう心がけて支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行い、食事や水分の摂取量を記録している。毎日の体操や屋外の散歩、リビング内歩行等体を動かす様に心がけている。下剤を極力使用しない様にしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、拒否の強い方は、入浴の良さを説明して上手に誘導している。無理には進めず、入浴が困難な場合には、足浴にしたりしている。浴室を温めたり、お湯の温度には特に気をつけている。	入浴日は週4回である。利用者が入浴を拒否される場合には、言葉かけを工夫したり、タイミングを図る等して入浴への誘導を行っている。入浴中は利用者と歌を歌ったり、入浴剤を入れる等、入浴を楽しめるように支援している。	回数を制限したり、曜日を決めずに本人の希望に沿った入浴ができるよう期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習性を尊重し、自由に休憩してもらっている。体調不良の訴えがあれば、充分に見守りながら休憩してもらっている。本人の生活習慣や行動状況、ストレスの状態を把握している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者個々の薬の目的を熟知し、誤薬予防に努め、正しく服薬出来るように支援している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き生きとした張りのある生活ができるように、若い頃の習い事や特技等を引き出し、日常生活に取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方や家族の協力を得ながら、利用者の思いや希望に沿って、行事や買い物、ドライブを行っている。	天候や利用者の体調にも配慮しながら散歩を毎日行っている。利用者は、近所へ買い物に行った帰りに喫茶店に寄ってコーヒーを飲むことが楽しみになっている。植物園や季節ごとの名所見学、外食や野外での食事など、利用者や家族の希望に沿った外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が金銭管理が出来ないので、管理者が預かっている。買い物等外出時には、利用者が財布を持ち、自分で支払えるよう見守り介助している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話している。家族・知人に手紙を書き、投函は、同行したり、代わりにポストへ入れている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの感覚や価値観を大切に、共同のスペースは、絵・花・手作りのおやつなどで居心地の良い雰囲気をしている。	共用空間は、清潔を保つように気を配り、また、車椅子や歩行の障害にならないように常に整理整頓を行うなど安全面にも配慮がある。リビングには、ソファを配置し、季節の花を飾る等家庭的な居心地でくつろげるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃から自由に過ごせるように、体力づくり・外出・園芸など工夫して支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切にしながら、安心して過ごしている。写真・思い出の品物等を飾り、環境作りにも配慮している。	居室は、それぞれの利用者が使い慣れた筆筒・椅子・ソファ・仏壇等馴染みの物が持ち込まれており、個性的な居室となっている。また、家族の写真や生花が飾られ、整理整頓されており、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自ら動けるように常に環境整備に取り組み、事故防止に心がけている。望んでいる事・やりたい事を聞き、自立してもらうようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、来訪者の良く見える場所に理念を書き、貼っている。また、スタッフ会議等で話し合い実施できるように努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している（ふれあいサロン、夏祭り、餅つき、町内清掃）散歩をしている時によく声をかけられるようになった。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等にて、テーマを決めて情報を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて報告を行い意見を求めている。地域や家族ほか色々な方を参考にし、スタッフで共有すると共にサービス向上につながる努力をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議の議事録は、毎回市町村担当者へ送り、わからないことは適時に質問し連携を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を作り委員も決め、問題が起きるとすぐに話し合い、記録して、家族へも報告し意見を求める。管理者より指導も受ける。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を繰り返し行い学んでいる。ケアカンファレンスを開き、全職員と話し合う場がある。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会で制度を学ぶ。制度利用者もおられ、他者への助言も出来るようになっていく。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解が得られるまで話をしている。その後面会時で相談、必要性のある話はその都度説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族や地域の方にも参加してもらい意見を交換している。会議での報告や意見についてはその都度対応している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや申し送り等で意見があればいつでも出してもらっている。必要があれば業務連絡会議で話してもらうようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、努力や向上心等に依りて処遇へ反映させている。誕生日のプレゼントなど配慮してもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	介護についての考え方や向上性をどのように発揮しているかを聞き、会社の希望に基づき規程の範囲内で採用を行なっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にそって地域活動、研修、勉強会を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	より良いサービスが出来るように介護や医療に必要であれば研修に参加し、スタッフの育成に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの情報交換、研修、連絡会へ参加し、サービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に会い、何をしたいのか把握し人間関係を保っていけるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、意向を聞き話し合いながら信頼関係を築けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がどのような支援、介助を求めているのか話を聞き、その状態にあった対応が出来るようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人権を尊重し日常生活が楽しく過ごせるようにしている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも常に情報交換し本人をしっかり支えていく関係を築けるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人には手紙、電話等で関係が途切れないようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置を工夫し、穏やかに過ごせる環境作りを行なっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に手紙や連絡を入れ様子を伺ったりし退居後のフォローをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から本人との会話や言動を通して本人のサインやニーズの把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や暮らし方の情報を集めたシートを見て把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりを観察し出来る事、出来ない事、したいこと等の見極め把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活での小さな変化は、すぐに報告し皆で話し合い介護計画につなげている。月1回のケアカンファレンスも行なっている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には本人の声や変化等を記録しスタッフで情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かすようにしている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況によりその都度、柔軟な対応で支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やふれあいサロンへの参加を積極的に行い豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望は受け、家族が同行出来ないときは、スタッフが同行するサービスもある。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の施設の看護師にいつでも相談できるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	速やかに情報を提供し、見舞いも頻回にすることで情報交換や相談に努め関係作りに努力している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と相談し対応を決めている（契約時にも説明はしている）。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や訓練、目の届くところにマニュアルをおきスタッフ全員が手当て初期対応が出来るようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2月と8月に避難訓練を行い、消火器の使い方や設置場所、避難通路の確認を行っている。避難訓練には、近くの家族や近所の方も参加される。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の生活行動を把握し、職員が情報を共有して、本人にあった声かけをしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何を望んでいるのかを理解する為に、常に声かけて話をよく聴くように心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの生活リズムはあるが、入居者の体調やその日の気分、状態にあった無理のない生活を送られている。職員も柔軟に対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、好み等は入居前より情報を得て、個別性を大切する様にしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が出来る事は、職員と一緒にいき、会話を交えながら楽しく食事が出来る様にしている。時々外食にも出かけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ては記録する事によって把握して、その日の体調や気分によりその都度対応している。特に水分補給には注意している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行なっている。なるべく本人に行なってもらい、職員が必要に応じて介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄は、記録する事によって把握し、自尊心を傷つけないような声かけをしている。また、少しでも失禁を減らすようにしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で、体をよく動かし、献立に繊維質のものを多く取り入れ、水分補給は好きな物で補給するようにしている。（ポカリ、牛乳等）		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回は必ず入浴するように声かけしているが、本人の体調、気分に合わせてしている。無理には進めていない。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく入居者と過ごすように工夫しているが、疲れや休憩が必要と思われる方は自室に誘導している。自分の好きな所で休まれている。（ソファ等）		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を各人のケアチェック表に入れて、全員が確認できるようにしている。服用するまで複数のスタッフがチェックを行い、ミスのないようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の残存能力を活かし、本人に合った役割りを分担をする事により、無理なく楽しみが継続できるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分や体調に合わせて、散歩、買い物、ドライブ、外食等希望に添うようにしている。地域主催のイベントやふれあいサロンに出かける時は家族の協力を得ている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどのの方が金銭管理が出来ないので、個人のお金は預かり金として、管理者が預かっている。買い物や外食の時は、職員がお金を利用者に手渡し、利用者に払ってもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をしたり、手紙や年賀状など定期的に出せるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なものも置かず、季節を感じられる物を一緒に作り飾っている。また、玄関先に季節の花や緑を一緒に植えている。静かな環境で過ごせるように声の調子にも気をつけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファなど危険のない様に配慮し、個人に合ったイスを設置して自由に過ごせる様に工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンは防火カーテンで統一しているがその他は自宅の物を配置している。仏壇も持ち込まれ安心して心地よく過ごせる様に工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無駄や危険な物は置かない様にし、適所に手摺など配置している。また、生活の動線上は目印や矢印、張り紙をして自由に動けるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない